

宮城県公文書館年報

第10号

平成22年度



宮城県公文書館

Miyagi Prefectural Archives

目次

公文書館の概要

1 設置目的	1
2 業務内容	1
3 沿革	1
4 組織	2
5 予算	2
6 施設・設備	2 ~ 4

平成22年度事業の概要

1 資料の選定・収蔵	5
2 簿冊の内容調査	5
3 閲覧台帳等の整備	6
4 保存対策	6
5 利用状況	7
6 広報普及	8 ~ 9
平成23年度事業計画	9

公文書館の概要

1 設置目的

宮城県公文書館は、「宮城県公文書館条例」（平成12年宮城県条例第132号）に基づいて設置された施設であり、歴史資料として重要な公文書等を保存し、県民共有の文化遺産として後世に伝えるとともに、閲覧、複写その他の利用に供することを目的とする。

2 業務内容

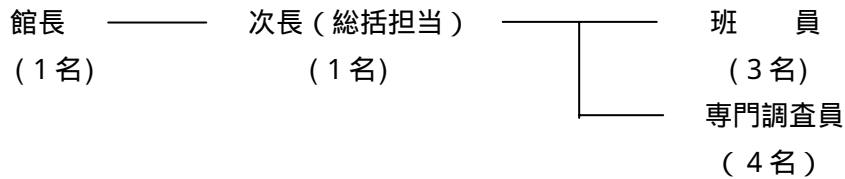
公文書館の主な業務は、次のとおりである。（宮城県公文書館条例施行規則第2条）

- (1) 歴史的価値を有する公文書その他の記録（以下「公文書等」という。）の保存に関する事。
- (2) 公文書等の閲覧その他の利用に関する事。
- (3) 公文書等の調査研究に関する事。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、公文書館の設置の目的を達成するために必要な事業。

3 沿革

昭和63年6月	公文書館法施行
平成元年度～	保存期間満了文書の中から歴史的・文化的価値の高い公文書の選別・収集・保存を開始
平成元年11月～2年3月	宮城県公文書館構想庁内ワーキンググループ設置
2年10月～3年3月	宮城県公文書館（仮称）建設検討委員会及び建設検討ワーキンググループ設置
3年7月～4年3月	宮城県公文書館（仮称）建設懇話会を設置（有識者7名）
4年3月	宮城県公文書館（仮称）建設懇話会から知事へ公文書館建設について提言
4年10月～5年3月	宮城県総合情報センター・公文書館（仮称）建設基本構想を策定
5年4月	他施設（国際交流プラザ）との併設を検討
9年7月	新図書館建設による旧図書館利活用庁内ワーキンググループ設置
11年1月	公文書館建設基本構想（平成5年3月）を断念し、旧図書館の活用を決定
13年4月1日	宮城県公文書館条例・同条例施行規則施行
13年4月21日	宮城県公文書館開館
14年6月	第14回都道府県・政令指定都市等公文書館長会議を当館で開催（国立公文書館主催）
15年11月	第29回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会（同協議会・宮城県主催）開催

4 組織（平成23年3月31日現在）



5 予算（平成23年度当初）

資料保存事業費	12,543千円
庁舎管理経費	14,081千円
合計	26,624千円

6 施設・設備

(1) 施設

イ 名称	宮城県公文書館					
ロ 所在地	仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地					
ハ 施設の形態	みやぎNPOプラザ・みやぎ婦人会館との複合施設					
ニ 敷地面積	4,942.78㎡					
ホ 構造	本館鉄筋コンクリート造り地下1階地上3階建て 書庫棟 〃 地上3階建て（5層式）					
ヘ 建築年月日	本館昭和42年11月30日建築 書庫棟昭和58年7月20日建築					
ト 建築面積	本館	1,153.39㎡	書庫棟	246.35㎡		
チ 延べ床面積	5,221.80㎡（本館4,040.70㎡，書庫棟1,181.10㎡）					
リ 施設別面積	公文書館	2,148.134㎡	みやぎNPOプラザ	1,261.561㎡	みやぎ婦人会館	479.163㎡
	共用スペース	1,332.942㎡				

又 公文書館専用部分内訳

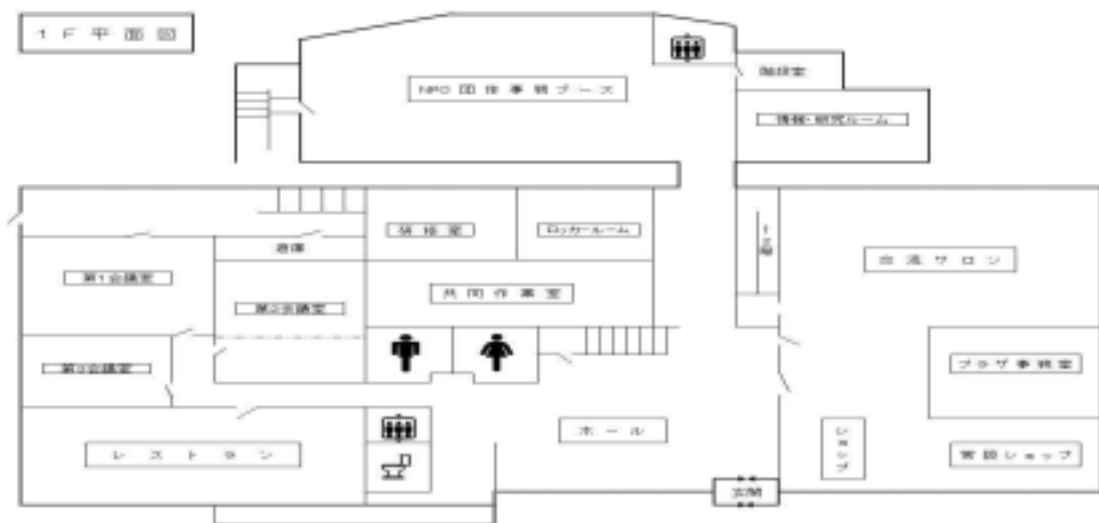
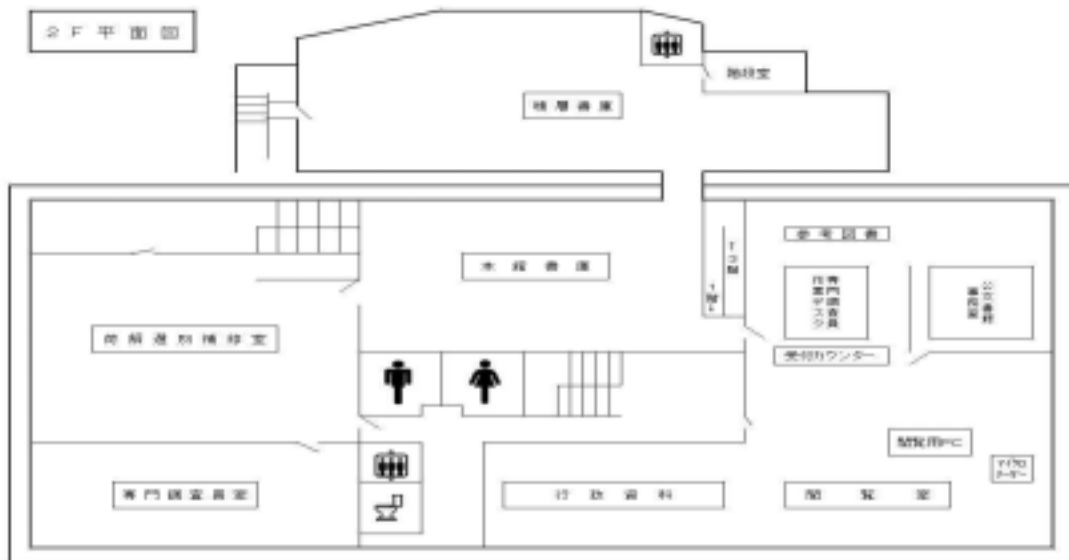
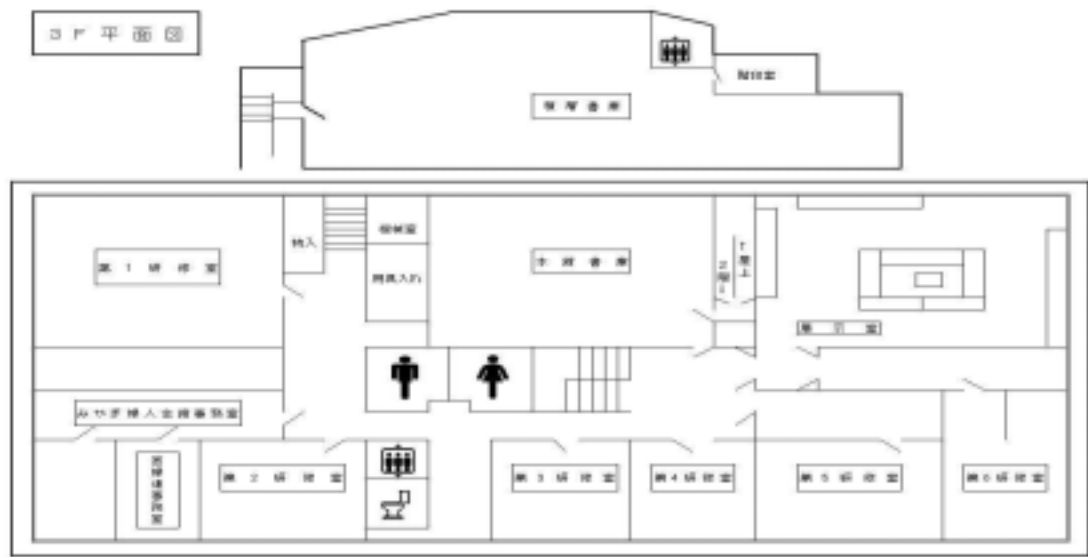
2 階		3 階		積層書庫	
室名	面積	室名	面積	室名	面積
事務室及び閲覧室	378.450㎡	展示室	151.650㎡	2 層	229.092㎡
公文書調査室	75.600㎡	書庫	212.131㎡	3 層	234.942㎡
荷解選別補修室	175.623㎡			4 層	229.092㎡
書庫	232.462㎡			5 層	229.092㎡
計	862.135㎡	計	363.781㎡	計	922.218㎡

(2) 設備

・昇降機設備	2台
・閲覧用テーブル	10卓(幅120×奥行き75×高さ70)
	2卓(幅225×奥行き90×高さ75)
・展示ケース(固定式)	3面
・〃(移動式)	4台(幅200×奥行き94×高さ80)
・マイクロフィルムリーダー・プリンタ	1台
・デジタルブックコピー	1台

(3) 大規模修繕関係

・耐震改修	計180,248千円
ア 平成10年度 耐震診断	4,284千円
イ 平成11年度 耐震補強・改修設計	9,870千円
ウ 平成12年度 耐震補強・改修工事	166,094千円
・アスベスト除去工事 平成18年度	1,575千円
・空調設備改修工事 平成19年度	23,980千円
・電気設備改修工事 平成20年度	3,412千円
・外壁及び内壁修繕工事 平成20年度	5,833千円
・内部等改修工事 平成21年度	13,683千円
・電気設備等改修工事 平成22年度	17,773千円



平成22年度事業の概要

1 資料の選定・収蔵

保存期間の満了した公文書の中から，歴史的価値を有する公文書を選定し，収蔵した。

(H23.3.31現在)

区 分	平成21年度末 所 蔵 数 (a)	年 号 ・ 年 度 区 分 訂 正 (b)	平成22年度 収 蔵 数 (c)	平成22年度末 所 蔵 数 (a+b+c)	備 考
公 文 書	明治期公文書	3,671	0	3,671	
	大正期公文書	1,692	0	1,692	
	昭和期公文書	24,194	0	320	24,514
	平成期公文書	4,320	0	122	4,442
	計	33,877	0	442	34,319
絵 図 面	1,565	0	0	1,565	
行政資料等	6,111	0	184	6,295	
合 計	41,553	0	626	42,179	

2 簿冊・絵図面の内容調査及び簿冊の再調査

(1) 簿冊及び絵図面のタイトル，作成年度，記載内容，公開・非公開区分，破損状況，補修要否などを調査した。

区 分	平成21年度末 調査済数	平成22年度中 調査数	平成22年度末 調査済数	備 考
簿 冊	27,626	515	28,141	昭和54年まで
絵 図 面	1,565	0	1,565	
合 計	29,191	515	29,706	

(2) 利用制限基準の改定(平成21年度改定)に伴い，明治元年～昭和51年度までのすべての簿冊について，新基準に基づき，公開の可否，利用制限期間を再調査した。

区 分	明治期公文書	大正期公文書	昭和期公文書 ～昭和51年まで	合 計
対象簿冊数	3,671	1,692	20,889	26,252
平成21年度 再調査済数	241	71	0	312
平成22年度 再調査済数	301	238	598	1,137
残	3,129	1,383	20,291	24,803

3 閲覧台帳等の整備

完結後30年以上経過したすべての所蔵資料名と内容調査が終了した資料の調査結果のデータについて、収蔵資料等検索システムに入力するとともに、年度別及び分類別の閲覧台帳を作成し、窓口に備え付けた。

4 保存対策

(1) 内容調査時の補修

簿冊の内容調査に合わせて、ホチキス、クリップ等金具の除去と紙縫による綴じ直し、破れている綴じ穴の和紙による裏打ち補修、セロテープ貼り写真の糊による貼り直し、「まくら」をはずして綴じ直すなどの補修を行った。

(2) マイクロフィルム化・複製化状況(H23.3.31現在)

区 分		平成 21 年度末 収蔵数 a	平成 22 年度 作成数 b	平成 22 年度末 収蔵数 a+b	備 考
マ イ ク ロ 口	公 文 書	374 巻	19 巻	393 巻	393 冊分
	行政資料等	151 巻	0 巻	151 巻	151 冊分
	計	525 巻	19 巻	544 巻	
	絵 図 面 等	5,761 ㊦	1 ㊦	5,762 ㊦	1,527 点分
複 製	絵 図 面	834 枚	125 枚	959 枚	

(3) 資料のデジタル化

湿式コピー文書や青焼図面等、褪色の可能性のある文書を含む簿冊一覧を台帳化。試験的にデジタルカメラで撮影し、デジタルデータをHDDに保存した。

(4) 書庫のくん蒸

当館の書庫は毒性の強い「臭化メチル」等は使用できない構造となっているため、毒性が弱いとされる薬剤を使用し、くん蒸を行った。

くん蒸期間：平成22年10月9日～11日

使用薬剤：ミラクスS(ピレスロイド系フェノトリン)

5 利用状況

完結後30年以上経過した文書を、個人情報等に配慮しながら、閲覧や複写サービスの提供に努めた。

(1) 来館による利用状況

項目 月	閲覧室利用者数 a	資料閲覧利 用冊数	複写件数	展示室入場者 数 b	入館者数合 計 a+b
4月	72	90	18	26	98
5月	37	167	20	4	41
6月	66	206	26	93	159
7月	67	315	35	4	71
8月	61	271	28	20	81
9月	81	365	37	6	87
10月	52	77	13	24	76
11月	43	71	20	4	47
12月	42	98	22	11	53
1月	36	77	10	0	36
2月	53	111	12	70	123
3月	18	38	9	19	37
合計	628	1,886	250	281	909
1日あたりの平均 (稼働日数 207日)	3.03	9.11	1.20	1.35	4.38

(2) その他の利用状況

出版物等掲載許可	レファレンス件数		
	メール	メール以外	計
7	54	10	64



検索用パソコン



閲覧室

6 広報普及

歴史資料として重要な公文書等を保存し後世に伝えていくことの必要性等について、県民の理解を得るため、企画展・常設展を開催するとともに、「公文書館だより」や「年報」をホームページに掲載した。

(1) 展示

区分	テーマ	場所	期間	入館者数
常設展	絵図でみる明治期の若林区	公文書館	平成22年3月26日 ～12月28日 (前年度から継続展示)	192人
移動展	明治時代の宮城の村絵図	県庁18階 広報展示室	平成22年4月26日 ～6月4日	847人
企画展	温泉にみる宮城のあゆみ	公文書館	平成23年2月1日 ～平成23年3月11日	89人

【企画展概要】

「温泉にみる宮城のあゆみ」

平成20年(2008)6月に発生した岩手・宮城内陸地震は、宮城県に大きな被害をもたらし、なかでも震度6強を観測した栗原市の栗駒山周辺の温泉・観光地は深刻な影響を受けました。被災から2年を経た栗原市は、栗駒山麓の観光地復興を目指して、岩手・秋田の2市1村と連携し、大きくあゆみはじめました。また昨年10月には、大崎市鳴子温泉鬼首荒雄岳の地熱発電所で、地下からの水蒸気が爆発的に噴き上げる事故が発生し、県民を驚かせました。

最近発生したこのふたつの出来事は、県民に大きな衝撃をあたえると共に、自然の力の恐ろしさをあらためて実感させることになりました。しかし一方で、温泉は宮城県の大切な観光資源であり、古くから人々に親しまれてきました。また温泉は、明治時代の富国強兵・殖産興業政策、大正時代の鉄道・軌道の敷設と電気の普及、昭和時代(戦中)の学童疎開など、宮城の歴史と深くかかわってまいりました。この企画展では、宮城県を代表する観光資源の温泉、なかでも鳴子・鬼首、作並、秋保、遠刈田温泉とその周辺地域をとおして、県がこれまであゆんできた明治・大正・昭和の歴史を振り返り、宮城の温泉と歴史を当時の貴重な公文書や写真等で紹介しました。



(2) 広報誌の発行

次のとおり、ホームページに掲載した。

「宮城県公文書館だより」

第17号 平成22年12月20日発行

「宮城県公文書館年報」

第9号(平成21年度) 平成22年5月28日発行

平成23年度事業計画

1 資料の選定・収蔵

保存期間が満了した公文書の中から、歴史的・文化的価値のある公文書を選定して、収蔵する。

2 所蔵資料の実態把握

レファレンス業務や閲覧申請等に迅速な対応ができるよう、所蔵資料の収蔵状況を把握し、保存状況、定期的な特別整理期間のあり方等を検討する。

3 簿冊・絵図面の内容調査及び簿冊の再調査

簿冊及び絵図面のタイトル、作成年度、記載内容、公開・非公開区分、破損状況、補修要否などを調査する。また利用制限基準の改定(平成21年度改定)に伴い、明治元年～昭和51年度までのすべての簿冊について、新基準に基づき、公開の可否、利用制限期間を再調査する。

4 閲覧台帳等の整備

簿冊の内容調査結果等に基づき、閲覧台帳及び収蔵資料等検索システムのデータ等を整備する。

5 保存対策

- (1) 内容調査時の補修
- (2) 公文書のマイクロフィルム化
- (3) 絵図面のカラー複製化
- (4) 資料のデジタル化
- (5) 書庫のくん蒸

6 広報普及

(1) 展示

常設展(公文書館展示室) 平成23年5月～8月,平成23年9月～12月

移動展(県庁18階広報展示室)平成23年8月22日～9月22日

(2) 広報誌の発行

「公文書館だより」及び「公文書館年報」を作成し、ホームページに掲載する。